

## 韓国の若者の生活スタイルの変化

### ホン・ミオク（韓国）

韓国の若者たちの生活スタイルについて、私が感じていることを簡単に書いてみます。

私たちの世代（368世代 i）は、1つの建物に下宿をし、自炊をしながら大学に通ったり社会人生活を送っていました。一緒に暮らしている人びとと寝食を共にし、お互いが気持ちよく過ごせるように礼儀を守りながら生活してきたものです。

ところが現在の若者は、ワンルームマンションを賃貸して一人暮らしをしながら、自分だけの生活を大切にしているように感じます。また、携帯電話やインターネットが急速に普及し、若者たちの手には常にスマートフォンがあります。多くの若者が、インターネット上のバーチャルな世界にのめり込み、人づき合いのかたちにも大きな変化をもたらしました。

私には、若者はあたたかい人とのつながりを感じる生活よりは個人を重視した生活を強く望んでいるように見えます。この特徴は、若者たちの生活において全般的に見られる傾向です。

一方、性別役割分担に対する考え方は、韓国社会では昔から男性優位の側面が非常に強い儒教的な考え方が大部分を占めていました。男女の付き合いに関しても、

- ・ 男と女はある一定の年齢になれば結婚をすべきである。
- ・ 結婚が決まれば男は家を用意し、女は家電製品、寝具、食器など生活に必要なものを用意する。
- ・ 男は家族を扶養し、女は家族のために家事をしなければならない。
- ・ 男は決断力があっておおらかであり、女は女らしくて思慮深いのが良い。

というような固定観念が存在します。

未だに根強く残っている部分もあるのですが、最近ではこのような考え方は徐々に変わってきています。まず、必ず結婚をする必要はないし、男女が一緒に結婚準備金を貯めて家を準備することもあります。また、男性だけが家族を扶養する義務があるのではなく、女性も仕事を持って社会生活をするを願い、家事も一緒にする若者が増加しています。さらに、以前は男性に対して、社会的に成功していて頼りがいがあることを求める女性が多かったのですが、最近では、社会的成功を願いつつも、もう少し家族に優しく家庭に暖かい男性を望んでいるようです。女性もまた家族に忠実でありながらも、同時に社会的に成功することを望んでいるようです。

例えば私の家でも、私は子育てをしながら仕事をしていますし、夫は家事に協力してくれます。しかし、やはり家事のおよそ70%程度は私が担当しているのではないかと思います。このように、女性の社会進出が進み、以前に比べ男性が家事に協力してくれるようになったからといっても、未だ、女性の負担が大きいのが現状なのではないでしょうか。

とはいえ、以前の韓国社会と比較すると、儒教的な価値観は次第に変わっており、男女

平等な社会に少しずつ近づいているのではないかと思います。

---

i 60年代生まれ、80年代に学生生活を送った世代